

News Letter

【わしらは木に生かされとるんで】

ユスモク・クラブの取組



ユスモク・クラブの活動拠点の木工所

現在会員は35人で、木工教室では月に1回程度、製材所や建具屋などの木のスペシャリストを講師として招き指導を受けています。会員は終日いつでも自由に木工所を使用でき、会員が作った作品は、各地のイベントなどで展示・販売を行い、木の魅力を発信するとともに、売上金はクラブの活動資金として今後の活動に役立てることにしています。木の食器や椅子、机のほか、個人の創作作品を作っていますが、今後は会員からアイデアを募り、ユスモク・クラブとして制作する製品を考案していきます。

四国山脈を挟んで高知県梶原町と接する西予市城川町遊子川（ゆすかわ）地区では、過疎化が進む地域を活性化させるため、木材を使った新たな事業を育てる組織として「ユスモク・クラブ」を平成26年8月に設立しました。廃校となった中学校の木工機械を譲り受け、使われなくなった遊子川保育所を木工所に整備し、ここを活動拠点として木工品の制作や木工教室を開催しています。



ユスモク・クラブ
設立総会



木工教室で指導を受ける会員



木工所にある作品展示室

なお、木工用機械による事故防止のために、木工教室には週3日管理人が常駐するようにしました。「将来は遊子川に木作家が定着し、木工が冬場の農閑期の副業として根付いていくことが目標」と事務局の中井さんは言います。

今各地で起きている高齢化や後継者不足による農地、林地の荒廃とそれに伴う集落人口の減少。それぞれの地域で集落を活性化させようと様々な取組を行っていますが、ユスモク・クラブの活動により遊子川地区に活気が満ちるよう、今後の取組に期待します。

トピックス

【里山・里海ものがたり】

伊予農業高校の取組



恋するじゃこカツキノココカレー

メニュー開発に当たっては、地域の活性化に取り組んでいるまちづくり学校「双海人」（ふたみんちゅ）の方々、また、低価格の雑魚の有効活用を図っている上灘漁協女性部の方から料理開発などのアドバイスを受けました。そしてメニューを、山の幸のシイタケと海の幸の「ジャコカツ」を使用した、若い人にも人気のあるカレーに決定しました。じゃこカツとシイタケを甲羅に見立て、地元三島神社の狛亀（こまがめ）をイメージした盛りつけにしました。商品化にあたり、シイタケとじゃこカツの味がうまく調和せず、双海人や校内での試食会などで試行錯誤を繰り返し、やっと「恋するじゃこカツキノココカレー」が完成しました。



上灘漁協女性部の方からアドバイスをいただきました



試食会の様子



三島神社の狛亀



吉川料理長から指導を受ける3人

9月30日にはJALシティ広島の吉川料理長から、素材を生かす味付けや盛りつけの指導を受けるなど、10月31日から11月2日にかけて行われる決勝大会での上位入賞を目指して、毎日レベルアップに励んでいます。

3人は、「双海の豊かな自然ときれいな海、おいしい食べ物をアピールし、双海に活気を取り戻すために今後も新しい商品開発などいろいろなことにチャレンジしていきたい」と話しています。



平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

農林業経営体調査（平成26年12月中旬～平成27年2月末）

農山村地域調査（平成27年4～6月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL： <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>